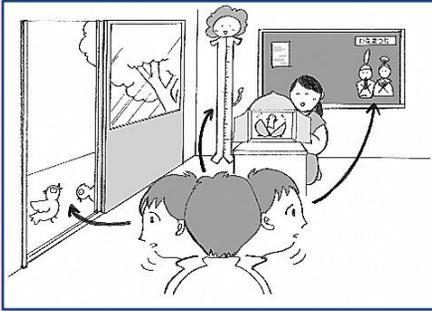


～集中できる環境をつくるために**刺激量の調整**をしましょう～

【参考】『保育園・幼稚園のちょっと気になる子』 中川信子 著



左の図のような状況で子供が紙芝居に集中できない要因は
何でしょうか？集中して活動に取り組むためにどのような
手立てが考えられるでしょうか？

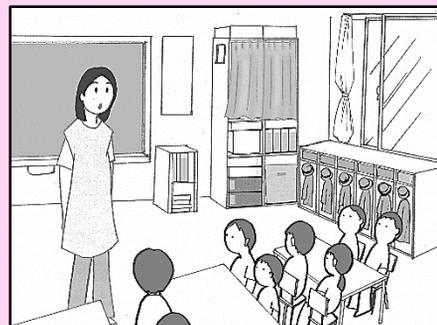
| 要因 | 手立て |
|----------------------------|--|
| 先生の背面や周囲にある物が視野に入って落ち着かない。 | 先生の背面がシンプルになるように何も置かない。また、無地のパネルなどを置き、周囲にある物が視野に入らないようにする。 |

★子供が集中できない様子が見られる時は、集中して活動に取り組めるように、刺激量を調整することが大切です。例えば、視覚的・聴覚的・身体的な視点から考えると、下の表のようになります。

| 視点 | 要因 | 手立て |
|------|--------------------------|---|
| 視覚的に | □明るすぎて落ち着かない。 | ・カーテンを閉めて少し暗めにする。 ・逆光にならないように先生が暗い側を背にするようにする。 |
| | □他の子供の姿が視野に入って、集中できない。 | ・集中しにくい子供を最前列や先生のそばに座らせる。 |
| | □紙芝居(本)が見えにくい。 | ・事前に子供の座る位置に座って見え方を確認する。 ・「ちゃんと見える？」と子供たちに確認する。 (特に両端、一番後ろの列の子供に尋ねる。) |
| 聴覚的に | □隣の保育室の音(歌や楽器の音など)が気になる。 | ・園内で相談して静かに集中できる時間(絵本の時間など)を決める。 ・聞き取りやすいように大きめのはっきりとした声と発音で話したり、(本などを)読んだりする。 |
| 身体的に | □姿勢や座る位置が定まらず、集中できない。 | ・いすに座る場合は、いすの高さが体に合っているか(床に足裏がしっかりついているか)を確認する。 |

【同じように、保育室の環境全体についても要因や手立てを考えてみましょう。】

この絵の中から子供の刺激になっているものを見つけ、どのような手立てができるか考えてみましょう。



刺激量を調整することで、子供が集中しやすくなり、安心して生活できるようになります。
子供の視点に立って必要な環境づくりに取り組んでいきましょう。

